

端山貢明

ピアノ・ソナタ (1960)

M. Hayama:
Piano Sonata (1960)

福島雄次郎

詩曲 (1966)

Y. Fukushima:
Poem for violin and piano (1966)

山本直純

いとしのブラックマリー (2001)

N. Yamamoto:
Lovely Black Marie for violoncello and piano (2001)
(山本祐ノ介 校訂)

湯山昭

ディヴェルティメント (1968)

A. Yuyama:
Divertimento for marimba and alto saxophone (1968)

小林亜星

タンゴ・ハポネス (2005)

A. Kobayashi:
Tango Japonés for violin and piano (2005)

仲俣申喜男

悲しみの鳥 (1996/2003)

N. Nakamata:
Oiseau triste pour flûte, percussion et piano (1996/2003)

丹波明

クインクエ (1975)

A. Tamba:
Quinque pour harpe et quatuor à cordes (1975)

池辺晋一郎 (プロデュース/お話)

中川賢一 (ピアノ)

尾池亜美／須山暢大 (ヴァイオリン)

安達真理 (ヴィオラ)

加藤文枝 (チェロ)

上野由恵 (フルート)

平野公崇 (サクソフォン)

塚越慎子 (マリンバ)

新野将之 (パーカッション)

篠崎和子 (ハープ)

創現作代本音軌跡

池辺晋一郎
プロデュース

第4回

1932年生まれの
作曲家たち

未来へ伝えたい。
日本の現代音楽界を切り拓き、
高めてきた先達の辿った道。

2022年10月7日 [金] 19:00開演
東京オペラシティ リサイタルホール

全席自由(税込) 一般:¥4,000 学生:¥2,000

東京オペラシティ Arts 及の会 優先発売:6月17日 (金)

「インターネット予約」会員優先発売:6月22日 (水)

一般発売:6月24日 (金)

●東京オペラシティチケットセンター:

03-5353-9999 <https://www.operacity.jp>

●チケットぴあ: <https://t.pia.jp> (Pコード 217-239)

●イープラス: <https://eplus.jp>

■就学前のお子様の同伴・ご入場はご遠慮ください。

■曲目・出演者等は、変更になる場合がございますのでご了承ください。

■営利目的によるネット・オーチケット等での転売はご遠慮ください。

主催: 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

協賛: ジャパンリアルエステート投資法人

25th
Anniversary
Tokyo Opera City
Concert Hall / Recital Hall

TOKYO
OPERA
CITY

池辺晋一郎
プロデュース

日本の現代音楽、創作の軌跡

すでに長い歴史を持つ我が国の作曲活動。今あらためて、日本の現代音楽が歩んで来た道程を振り返り、そのなかから選りすぐりの作品をお聴きいただきたいと、当財団のミュージック・ディレクター池辺晋一郎が企画したシリーズです。第四弾の今回は1932年(昭和7年)生まれの作曲家を特集します。同時に、道を切り拓いてきた作曲家たちと彼らが生み出してきた作品を間近で見聴きしてきた池辺が、自身の言葉で、作曲の人となりや時代の空気を次の世代へと伝えたい、そのような思いでプロデュースしました。

戦後の日本の作曲界は「昭和一桁生まれ」の作曲家たちに牽引されてきた。これに戦争がかかわっているのは間違いない。が、音楽のみならず映画や放送、演劇など隣接ジャンルの急速な変遷や発展とリンクしていることもたしかである。それゆえに「昭和一桁」たちの活動は多彩かつ多様であった。その一世代下になる僕は、不遜ながら彼らの末弟だという気がしてならない。下世代の長兄ではなく、ある。若いころから僕の裡にひっかかっていたこの思いの検証を、と考えたのがこのシリーズのモチベイションだ。「1929(昭和

4)年生まれ」からスタートしたこの企画も、4年めとなった。今回は「1932(昭和7)年生まれ」だ。この年、上海事変が起きる。傀儡政権による満州国の建国。五・一五事件。ロス・アンジェルス五輪。15区だった東京が35区に。チャップリンの来日。名歌《影を慕いて》のヒット。軍靴の響きが高くなってきたこの年生まれの作曲家たちの最高に多種多様な音楽を、聴いてください。

池辺晋一郎
(東京オペラシティ文化財団 ミュージック・ディレクター)

今回の演奏曲について (執筆:川島素晴)

端山貢明

ピアノ・ソナタ(1960)

東京藝術大学を経てパリ音楽院でメシアンに師事。洗練された筆致が高く評価されるも、実は戦前の幼少期からアニメ制作を試みていた端山は、1970年頃よりコンピュータ・アート(音楽ではなく!)に主軸を移し東北芸術工科大学教授を務めるという、類稀な経歴の持ち主。生粋の理系脳による、それでいて愉悦に満ちたソナタの妙。

福島雄次郎

詩曲(1966)

鹿児島赴任後に奄美の島唄を探査し、それを作曲に採り入れた合唱曲によって成功を収め、合唱界では知らぬ者のいない重要な存在となる。そうした取り組み以前の作品では、12音技法を含む様々な模索がなされていた。本作はそういう時期に書かれたものだが、後年の日本的な素材を昇華した作品像を予見させる内容となっている。

山本直純

いとしのブラックマリー(2001)

『男はつらいよ』をはじめとする夥しい数の映画音

楽の作曲家、そして日本を代表する指揮者として、この世代の最も著名な音楽家の一人。冗談音楽作品でも知られその印象が強いが、純音楽作品も多い。息子の山本祐ノ介が初演した本作は亡くなる前年の作品で、そうした彼の様々な活動の軌跡を垣間見るような内容となっている。

湯山 昭

ディヴェルティメント(1968)

国際的定番曲で、本シリーズ全演目中でも圧倒的な再演、録音歴を誇る。湯山は子供向けピアノ曲で親しまれるが、20世紀前半までの諸様式を横断する筆力と鋭敏な耳で、サックス全音域の駆使、マリンバの6音和音等、この編成の可能性を最大限に引き出す。3月に東京オペラシティコンサートホールでの個展で上演された本作、今度は間近に体感されました。

小林亜星

タンゴ・ハボネス(2005)

『寺内貴太郎一家』の当たり役以来マルチタレントとして活躍。その後も自身作曲の《さいでりあ》CM等、昨年の逝去まで生涯お茶の人気者だったが、日本作曲家協議会会長を務めるなど、作曲業こ

そが本分である。ロマン薰るヴァイオリン作品を天満敦子と協働して数多く手掛け、本作では日本の心情をタンゴと融合している。

仲俣申喜男

悲しみの鳥(1996/2003)

東京大学文学部卒、間宮芳生、清瀬保二に師事。メシアンの薰陶も受け、日本の鳥の声の研究を実践。本作も鳥の声に始まる。武満徹追悼で作曲、ラヴエルと同一題名、更にドビュッシーやマーラーの影が折り重なる。鹿児島短期大学に福島と同時期に赴任した同僚でもあり、現代音楽の様々な潮流を晩年までリサーチしていた。

丹波 明

クインクエ(1975)

端山と同じ「東京藝術大学を経てパリ音楽院でメシアンに師事」という経歴だが、フランスに残り作曲、音楽学ともに多大な功績を残す究極の王道を貫き、高度に知的な思考に裏付けられた書法が国際的評価を受ける。能の独自研究が不決定要素の介入度合いとして作品内容に反映。序破急の概念、ハープ奏法の探究も特筆されよう。

演奏会についてのお問合せ

東京オペラシティ文化財団 <https://www.operacity.jp>

〒163-1403 東京都新宿区西新宿3-20-2 Tel.03-5353-0770

東京オペラシティ Arts友の会 会員募集中 入会金無料 年会費3,300円(税込)

[特典]主催公演の優先予約と10%割引ほか Arts友の会 事務局 Tel.03-5353-0799

公演詳細



- 京王新線 初台駅東口直結(徒歩5分以内)
- 渋谷よりバス(約20分)
京王バス→渋63、渋64、渋66
都営バス→渋66

コンサートホールおよびリサイタルホールへお車でお越しのお客様は、駐車料金の割引制度をご利用いただけます。



JREは日本最大級のJリートです。
私達は東京オペラシティ文化財団に
協賛しています。

東京証券取引所上場 証券コード: 8952

ジャパンリアルエステイト投資法人

ホームページURL <http://www.j-re.co.jp/>